

保健活動リレーエッセイ

“まちの健康支えます！”

津奈木町 保健師 五嶋睦子

「個」を大切にした保健事業を

津奈木町は県南に位置し、総面積が 33.97 平方キロメートルとこぢんまりとした町です。不知火海に面した海岸線は美しく、自然に囲まれた「本当によかところ」です。天草生まれの私ですが、大切な故郷となっています。

私一人だった保健師は平成 7 年度から 1 名、平成 25 年度からは嘱託で 1 名増員して計 3 名になり、また、栄養士も今年度から嘱託で 1 名雇用となり、住民の健康づくりに携わる仲間が増えうれしい限りです。老健法時代の保健師である私は、新しいことがなかなか頭に入って来なくて困っていますが、仲間に支えられて少しずつ変わってきたかなと思っています。

本町は、8 年前に国保連合会の「腎不全及び糖尿病等対策推進検討会」モデル町になり、町の健康課題から計画化まで学ぶことができました。

モデル事業では、最初に人工透析者の戸別訪問を行いました。その中に 70 歳代の女性で 10 年以上毎年のように町の健診を受けていた方がいました。高血圧症の治療中でしたが重度高血圧が継続して、尿蛋白も陽性、貧血も見られていました。その女性に関わった早い段階で「腎」の視点があれば、そしてもっと的確な指導ができていれば、透析に至るまでの期間を延ばせたのではないかと、胸が痛い事例でした。当たり前のことですが、「個」を大切にすることを痛感しました。

また、当時、人工透析率・医療費・特定健診受診率いずれも市町県下ワースト 1 でしたが、やっと改善が見られつつあります。

現在、健診結果をもとに、生活習慣病重症化予防のための個別指導を行っています。未受診者の中には、もっと重症化している人がいることが考えられ、受診率の向上は大きな課題です。

ワースト 1 から脱却しようと国保担当者・保健師・栄養士でがんばっています。



住民課の健康づくりの仲間たち（右から 2 人目が筆者）

町役場庁舎前の彫像
「はぐれっ子」前で

次号執筆者は阿蘇市の蔵原眞由美保健師の予定です。